平成19年7月25日

各　位

会社名　サイオステクノロジー株式会社
代表者名　代表取締役社長　喜多伸夫
（コード番号　3744　東証マザーズ）
問合せ先　執行役員財務経理部長　小林徳太郎
（TEL．03－6860－5105）

業績予想の修正に関するお知らせ

平成19年2月1日付当社「平成18年12月期　決算短信（連結）」において発表いたしました平成19年12月期中間（平成19年1月1日～平成19年6月30日）並びに通期（平成19年1月1日～平成19年12月31日）の連結業績予想及び個別業績予想を修正いたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1．平成19年12月期中間業績予想数値の修正（平成19年1月1日～平成19年6月30日）

(1)連結業績予想　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	2,840	△39	△64
今回修正予想（B）	2,956	30	△65
増減額（B－A）	116	69	△1
増減率（％）	4.1％	－	－
（ご参考）前年同期実績（平成18年12月期中間）	2,375	47	△31

当社は平成18年6月、SteelEye Technology, Inc.の株式を100％取得し、子会社としましたが、中間期は、貸借対照表だけを連結し、損益計算書は連結しておりません。

(2)個別業績予想　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	2,547	46	27
今回修正予想（B）	2,647	129	45
増減額（B－A）	100	83	18
増減率（％）	3.9％	180.4％	66.7％
（ご参考）前年同期実績（平成18年12月期中間）	2,375	47	△31

(3)修正の理由

連結業績は、国内・アメリカ・ヨーロッパでのLifeKeeper(*1)の販売及び国内でのRed Hat Enterprise

Linux(*2)をはじめとするソフトウェアビジネスが好調であったため、売上高は、前回発表予想を 4.1％上回り、2,956 百万円となる見通しです。経常利益は、徹底したコスト削減により売上原価、販売管理費を抑えた結果、前回発表予想の 39 百万円の赤字から 30 百万円の黒字転換となりますが、中間純利益は、大塚商会企業年金制度改革に伴う同基金脱退による前払年金費用 44 百万円の特別損失計上と、利益増に伴う法人税等の増加により、前回発表予想を 1 百万円下回る△65 百万円となる見通しです。

個別業績は、前述のとおり、LifeKeeper などのソフトウェアの好調な販売とコスト削減により、売上高は、前回発表予想と比べ 3.9％増の 2,647 百万円、経常利益は前回発表予想と比べ 180.4％増の 129 百万円と大幅な増益となります。中間純利益についても、前述の特別損失 44 百万円を吸収でき、前回発表予想と比べ 66.7％増の 45 百万円となる見通しです。

(*1) LifeKeeper

当社米国子会社 SteelEye Technology, Inc.の開発による、本番稼働のサーバーとは別に、同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担う HA(ハイアベイラビリティ)クラスターソフトウェア。

(*2)Red Hat Enterprise Linux

LinuxOS の世界最大ディストリビューターRed Hat, Inc.が開発する LinuxOS。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 平成 19 年 12 月期通期業績予想数値の修正(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(1)連結業績予想 (単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,800	4	△81
今回修正予想(B)	5,800	10	△110
増減額(B－A)	0	6	△29
増減率(％)	0	150％	－
(ご参考)前年同期実績(平成 18年 12 月期)	5,125	△16	△184

(2)個別業績予想 (単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,180	144	85
今回修正予想(B)	5,180	148	55
増減額(B－A)	0	4	△30
増減率(％)	0	2.8％	△35.3％
(ご参考)前年同期実績(平成 18年 12 月期)	4,843	72	△84

(3)修正の理由

中間業績は、当初予想を上回る営業成績になりますが、下期以降、競争は更に激化していくものと予想され、通期の売上高は据え置きと致します。一方、先行投資のための研究開発に力を入れるとともに、更なるコスト削減にも努め、経常利益は上方修正致します。当期純利益は、企業年金基金脱退に伴う特別損失 44 百万円により、下方修正いたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上